

《課題名》

眼底カメラ機器別による撮像範囲の比較検討

《研究対象者》

滋賀医科大学付属病院眼科に受診した患者のうち、2018年4月～5月の期間にCLARUS®かつoptos®にて眼底写真を撮影した方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：眼底カメラ機器別による撮像範囲の比較検討

研究期間： 倫理審査委員会承認日から **2023年3月31日**

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 眼科 澤田 修

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

眼底写真撮影は、眼底病変を客観的に評価するために有用な検査です。従来型の眼底カメラの画角は50°程度であり、それ以上の範囲を撮影するためには複数枚の画像を組み合わせる必要があります。2011年に1ショット0.3秒で画角200°の撮影が可能である超広角走査レーザー検眼鏡optos®が登場し、現在広く使用されています。しかしoptos®で撮影できる範囲は眼底の80%であり、さらに睫毛や眼瞼の挙上をしっかりと行わないとそれらが映り込んでしまいます。このことより、網膜最周辺部の病変の見落としが起こりうると考えられます。また、optos®は波長532nm（緑）と波長633nm（赤）の二つのレーザーでスキャンし、疑似カラーを着色しています。そのため、撮影された写真は実際の眼底とは異なる色で表示されます。

最近新しい走査型超広角眼底撮影装置としてCLARUS®が承認・発売されました。これは1ショットで130°の画角が撮影でき、2枚で200°の画角となります。さらに、4枚の画像をモンタージュすることにより、optos®より広い範囲を撮影できる可能性があります。またCLARUS®は緑・赤・青の三つの波長のレーザーでスキャンするため自然に近い色調の画像となります。CLARUS®の登場により、より広い範囲を、より実際の眼底に近い画像で残すことができるようになることが考えられます。またCLARUS®は白内障や硝子体混濁など、前眼部・中間透光体の混濁がある症例でも眼底を撮影できると言われています。今までoptos®で撮影できなかった眼底が画像として残すことができるようになると考えられます。

本研究は、既存のもの（optos®）と新しいCLARUS®の撮像範囲を調べることで、より広範囲の眼底の写真撮影の可能性を明らかにできると考えています。CLARUS®の可能性を明らかにすることで、周辺部の病変の発見や見落としのリスクが軽減された、より良い診療を行えると考えます。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

CLARUSという眼底カメラと、optosという眼底カメラによって撮影した眼底写真を用いて、眼底を撮影できている範囲を比較します。

(5) 個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(8) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用を停止することができます。停止を求められる場合には、(2020年4月30日までに)下記(10)にご連絡ください。

(9) 研究の資金について

この研究は、滋賀医科大学眼科学講座の研究費を用いて行います。企業からの寄付金や研究費などの研究資金の提供はありません。

(10) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 眼科 岡本 理子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2276

メールアドレス：hqophth@bell.e.shiga-med.ac.jp